

国語教育研究会情報

2023. 1. 11

第3号

編集発行

長野県国語教育研究会

2/4(土) 第2回全県研究会 国語学力のそもそもを問い直す

誰が国語力を殺すのか 言葉とは「生きる力」

新学習指導要領が施行。国語科では新科目が来年度ですべて導入されます。それを待っていたかのように、再来年に実施される共通テストの試作問題が公表され、これまで、出題されてこなかった新傾向の問題が出題され、現場に困惑が広がっています。そのなかで、『ルポ 誰が国語学力を殺すのか』が発行され、話題を呼んでいます。

そこで、第2回全県研究会では、著者の石井光太さんをお招きしてこの機会に国語学力のそもそもを問い直す出発点として、オンラインでの講演会を企画しました。多くのみなさんの参加をお待ちしています。

石井光太さんのこと

石井光太さんはこれまでも数多くのルポルタージュを出版してきました。NHKのクローズアップ現代プラスのコメンテーターとしても活躍されています。

常に弱者の立場に立ち、丹念で精力的な取材をとおして、様々な問題提起をされてこられました。

今回の著作でも石井さんの取材をとおして、言葉を奪われたこと私たちのリアルが浮き彫りになります。



『ごんぎつね』の読めない小学生、反

省文の書けない高校生……。

著作をとおして、私たちが無意識に接していた生徒たちの実像がそういえばそ

うだよと思わずうなづいてしまうように

浮かび上がってきます。

- 1) 日時 2月4日(土) 10時~12時
- 2) 形態 ZOOMによるオンライン
- 3) 内容 ◎ 講演「誰が国語力を殺すのか
～言葉とは「生きる力」～」
講師 石井光太氏
◎ 質疑・意見交換
- 4) 日程
9:40~Zoomへの入室開始
10:00~10:10 主催者あいさつ・講師紹介
10:10~11:40 講演
11:40~12:00 質疑・意見交換

国語学力のそもそもを考える
定通教育研究会・特別支援
教育研究会との共催企画

生徒の進学保障のために共通テストにどう備えるかという取り組みも求められています。一方で各国語研究室では、そもそも国語学力とはという問いかけも大切なのではないのでしょうか。

「生きる力」としての国語力。国語力のそもそもを考えるという意味で、今回の研究会は、特別支援教育研究会、定通教育研究会にも呼びかけ、3研究会共催で実施します。他研究会とのコラボは国語研究会では久しぶりの企画になります。また、さらに教科の枠をこえ、多くの先生がたの参加をよびかけます。



参加申し込み
はこちらから



共通テスト 授業を変える？

試作公表 高校現場の受け止めは…『余計なもの』交ぜ難解に

2025年1月に実施される大学入学共通テストの試作問題が公表された。新設の「情報Ⅰ」や、科目が再編される地理歴史・公民など、新しい学習指導要領に基づいて作られた問題を、高校現場はどのように受け止めたのか。

「聞きたい問題の本質に『余計なもの』を交ぜ、わざわざ難解にしているようだ」。栃木県立高校で国語を教える男性教諭は、そう不満を漏らす。勤務校は、多くの生徒が共通テストを受験する。

問題を見て、「国語指導の範疇を越える表やグラフの読み取りや、理科の領域の発想力が問われる問題があった」と感じた。他教科の問題を確認した教員らとは、指導方法の変革が必要だと考えて一致した。相違の意識改革をしながら、教員間で指導法を工夫・共有しながら、足並みをそろえて授業を組み立てていく必要がある。

懸念するのは、予備校や参考書への依存度が高まることだ。「表やグラフなどの資料を使った問題や、対話型の試験問題を学校が独自に作るとなると、ハードルが高い。特に学校外に指導できる人が少ない『情報Ⅰ』については、地方が不利になると容易に想像できる」と語った。

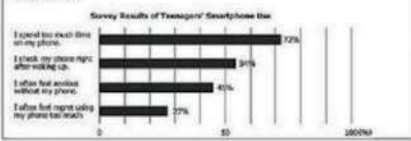
東京都立葛飾総合高で英語を担当する浦部ひとみ教諭は、英語力だけでは対応できない、教科横断的なテーマを扱う問題があったことに驚いた。リー



今年1月に実施された大学入学共通テスト、東京都文京区の東大生

「教科横断型、情報交換が大事」「探究の時間確保が必要」

Source B
A study conducted in the U.S. found that numerous teenagers are addicted to their smartphones. The study surveyed about 1,000 students between the ages of 13 and 18. The graph below shows the percentages of students who agreed with the statements about their smartphone use.



問4 Based on Source A, which of the following is the most appropriate for Reason 2? A B

英語の試作問題に登場したグラフ

全体的には やや解きやすく

駿台予備学校の石原賢一・進学情報事業部長の話 全般的にみれば、これまでよりはやや解きやすくなった印象。国立大を受ける生徒が多い進学校は、グラフや図を読み解き、思考するという新傾向の出題の対策をしてきており、それほど苦勞はしないだろう。国語は、思ったほど変わらず、上位層には解きやすい問題だ。英語も、深く理解した上で、その場で受験生が考えるようによく作られている。

だが、対話型や探究型の授業で教育効果を上げるには、一斉授業よりも十分に時間をとる必要がある。「授業時

間を確保するために、これまで教えてきた知識のうち何を教え、何を教えないか、を精選する必要がある」と考えている。

浦部教諭は、都立高で世界史を教える鈴木智和教諭が印象的だったのは、授業場面を素材とした問題の増加だ。「教員と生徒が会話する場面や、班別に資料をもとに探究する場面などは、『ふだんからこのような探究的な授業を進めてほしい』というメッセージを感じた」という。

今年共通テストの問題では、元長な問題文が散見されたが、情報以外の科目はこなれてきたように感じた。「回数を重ねていけば、必要な情報を的確に与えて思考力を問うような、洗練された問題になるのではないかと」

浦部教諭は、都立高で進路指導協議会の事務局次長を務める。校内に勉強会を立ち上げることは容易ではないが、教員同士が授業を見学しあうだけでも効果があると考える。「授業の進め方を改善し、使っている資料を共有すれば、教員の幅野が広がる。教員の主体的な取り組みが、色々な入試問題の対策を立てる上にもつながる」

浦部教諭は地理歴史・公民の科目選択にも言及した。2科目を選んで受ける場合、選択できない科目の組み合わせがあるからだ。鈴木教諭は「非常に複雑。生徒には、これまで以上に早い段階から受験時の選択科目を意識させ、周知徹底する必要がある」とした。高校生に身近な問題や探究的なプロセスを素材にした問題が多い点に注目するのは、首都圏の中堅私立高の校長だ。「対話型や探究的な授業が多い生徒にとっては、こうした出題は身近に感じるのではないかと」

今年共通テストの問題では、元長な問題文が散見されたが、情報以外の科目はこなれてきたように感じた。「回数を重ねていけば、必要な情報を的確に与えて思考力を問うような、洗練された問題になるのではないかと」

今年共通テストの問題では、元長な問題文が散見されたが、情報以外の科目はこなれてきたように感じた。「回数を重ねていけば、必要な情報を的確に与えて思考力を問うような、洗練された問題になるのではないかと」

今年共通テストの問題では、元長な問題文が散見されたが、情報以外の科目はこなれてきたように感じた。「回数を重ねていけば、必要な情報を的確に与えて思考力を問うような、洗練された問題になるのではないかと」